

隨筆

浦上切支丹と元御師山田大路篤忠

飯田良樹（久居一志地区）

表題の浦上切支丹と神宮御師の山田大路篤忠とはどんな関係があるのかな？と疑問に思われる方がおられるでしょう。

話は10年以上前に初瀬街道を調べている時の事です。白山町二本木の閑城地区を歩いていると大きな幼稚園跡があり老婦人が掃除をしておられました。お聞きすると、「教会を併設する大三幼稚園が昔あり、詳細を知りたいのなら、以前、橋井敏彦さんという方が『大村（二本木）の歴史～大村切支丹～』を作られて数冊置いて行かれました。興味があれば1冊差し上げますよ」といわれて頂戴しました。



大三教会跡

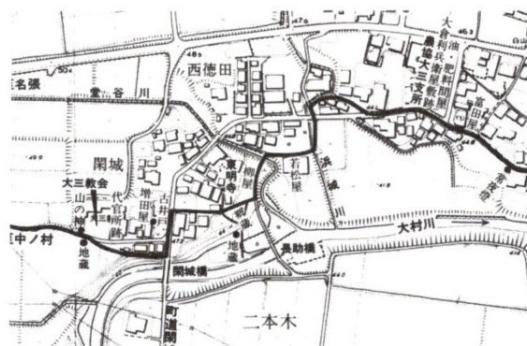
2009年に作製された大村切支丹についての力作で浦上切支丹が幕府の弾圧でどのような経緯で津藩に預けられ、どの様な待遇を受けて帰国したかが記載されていました。

その後、高校先輩の浅生悦さんが『知られざる郷土史 津とその周辺』（2017年）を届けて下さいました。その中で「津のキリスト殉教」が目にとまりました。キリスト教伝来、キリスト禁制、キリスト取締に続き浦上キリストお預けが書かれています。

双方の本の浦上切支丹を要約すると、1865年に長崎浦上村に浦上天主堂が出来、隠れ切支丹が名乗り出る（切支丹復活）。長崎奉行が慌てて取り締まる（浦上四番崩れ）。ここで「崩れ」とは検挙の意味。幕府は開国しているので今までのように処刑出来ず、1869（明治2）年に3000人以上を

21藩に配流。その中に津藩があり155人を預かる。その内、大村（二本木）に当初75人が預けられた。記録では73人、74人となっているが、逃亡や死亡で数が違うのか？預けられた期間には、神官・僧侶・役人などが改心を勧めて記録では10人が改心した（他の文献では改心者0人）。生活は農業・日雇い・博労などで死亡2人（他の文献では6人）と21藩中では一番少なく、大村での待遇は切支丹に優しかったと言われている。1871（明治4）年7月廢藩置県で大村は度会県となり、橋本実梁が県令、安岡良亮が参事となる。参事が大村を巡回して信徒に山田へ場合により引き取ると約束。1873（明治6）年2月大村から度会県庁所在の山田に移動して薩摩屋敷に身を置く。別の文献では山田大路篤忠宅となっている。1873（明治6）年2月24日切支丹禁止を明治政府が改める。4月25日山田を出発して5月21日に浦上到着。以上が大村切支丹の大約です。

橋井敏彦さんの本には大村収容された場所は代官所跡に収容されたとなっています。また、色井秀謙『白山町今昔昔々』では池田佐助大庄屋の屋敷が藩に没収されて代官所になり、その後、浦上切支丹収容所になったと書かれていました。



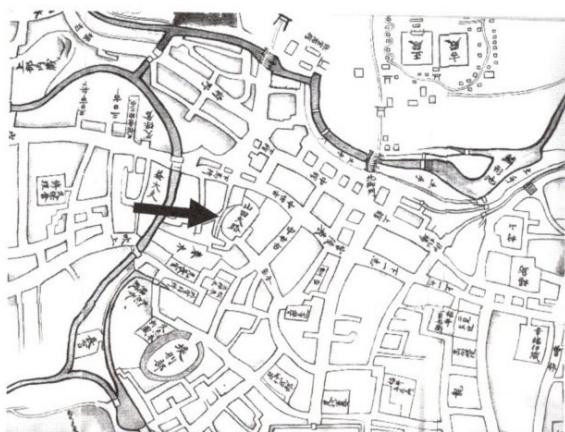
『初瀬街道・伊勢本街道・和歌山街道』

(三重教育委員会編)より

橋井さんによると、この収容所になった代官所跡は、広島県三次（みよし）生まれの林里吉さ

んが昭和13年4月に神戸中央神学校の賀川豊彦の命により、二本木の地に伝導をするために赴任し、昭和15年に大三伝導所開設、昭和22年大三教会建設して牧師に、昭和31年大三教会大三幼稚園を併設となっています。では何故二本木に赴任したかは、浦上切支丹お預けの地であった為ではないかとされています。その後、大三教会は久居新生教会に移され、昭和51年に公立大三幼稚園が設立されたため大三幼稚園は閉園します。

ここまでが大村切支丹の話で、御師山田大路篤忠の事はというと、明治4年7月に御師廃止があり、御師山田大路は廃絶となります。山田三方（山田有力者の合議組織）を務めていたので士族の称号を受けます。



『天保五年山田町方之図』(伊勢市教育委員会)より

山田大路の読み方ですが、平成18年津リージョンであった中世都市研究で千枝大志さんが「山田」の地名は「やまだ」ではなく「ようだ」と史料的根拠より発音すると発表されました。また、大西源一『参宮の今昔』の山田十二郷の中に度会氏の一派山田大路家を「ヤウダオウヂ」と言っていることで、古くは山田を「ヤウダ」といったと書かれています。

「伊勢探訪記」の秋田耕司さんより山田大路篤忠は、『神宮御師史料 外宮編』（皇學館史料編纂所編）に、豊川町8番地 士族 山田大路篤忠 三方年寄家 飯高神戸司 正六位 主配札国：薩摩・大隅・日向 という情報を頂きました。

(古地図の下馬所は明治に豊川と地名変更される)

薩摩屋敷に身を置くとは、山田大路篤忠の御札の配り先が薩摩主体だったのでそう呼ばれたのか？また、福島大夫や宮後三頭大夫も九州に配札をしていたのに何故、福島大夫や宮後三頭大夫の預けにならなかったのか？明治4年の御師廃絶が

関係したのか？

これらに関して、明治6年2月8日の『異教徒移転之儀御届』に、下馬所の山田大路宅は山田市街中央に位置し、自然と他の人民の風儀を見習つたり、職に就きやすい場所で選定したと記しています。豊川8番地（下馬所）は、現在の外宮に向かう大きな通り（県道37号線で昔、大鳥居が跨いでいた）内にありました。

山田大路篤忠の御師廃絶後の職業は、以前に医師会の明治のことを調べていた時、久居一志地区医師会前事務長さんより八太村での明治開業記録に山田大路篤忠 士族と記載があったと教えていただいたのを思い出しました。あとで、国立国会図書館デジタルコレクションで「三重県衛生年報」の「附録医師姓名録」で検索すると明治22年から明治25年を見ることが出来、明治23年から一志郡八太村 成期ノ試験ニ依ルモノ 三重県士族 山田大路篤忠 安政六年十一月 と掲載されていました。この事より、度会御師の山田大路篤忠宅が御師廃絶後、一時期浦上切支丹の山田収容所となり、その後篤忠が医師試験に合格して明治22年に一志郡の八太で開業したのは、広島県三次の林里吉さんが一志郡内の二本木に赴任したのと同様に浦上切支丹のご縁かなと思いました。

残念な事に、法務局で調べても、村に残された史料を調べても山田大路篤忠が八太の何処で開業していたのか、何時までしていたかは現在のところ不明のままとなっています。

いろいろな事を調べていると、ある日それが一つに結びついてきたたりして、面白いです。

明治期の医師に興味のある方は、国立国会図書館デジタルコレクション「三重県衛生年報」の「附録医師姓名録」を検索してみてください。三重県内のその頃の医師の動向がわかりますよ。

参考文献

『大村（二本木）の歴史～大村切支丹～』橋井敏彦 2009

『知られざる郷土史 津とその周辺』浅生悦生 2017

『浦上キリストンと三重』松浦栄『三重の古文化61号』1989

『白山町今昔昔嘶』色井秀譲 1973

『都市をつなぐ』中世都市研究13 2007

『神宮御師史料外宮編III』1985

『参宮の今昔』大西源一 1956

『御師』大研究中間報告』秋田耕司 2013